

## 第4分科会 研究課題「組織・運営に関する課題」

### 研究主題「明るく元気な学校づくりを目指した働き方改革の在り方」

東諸県支会 国富町立森永小学校 福嶋 芳人

#### 1 主題設定の理由

今日の学校教育は、より複雑で困難な課題が山積しており、今まで以上に改善・充実が求められている。

しかし、教師の勤務実態は厳しいものがあり、疲労、疲弊した実態も今日的課題と言える。

東諸県支会では、これまでの働き方を見直し、教師が教育的課題と向き合って自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童・生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるようになることが急務であると考え、本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

東諸県郡内の各学校において、教師が元気で明るく働ける学校環境をつくるための働き方改革の在り方について考察する。

#### 3 研究の概要と成果

各学校の取組とその成果、教頭としての役割は次のとおりである。

##### (1) 本庄小学校

###### ① 取組とその成果

会議の精選や校時程（午前5時間）の工夫を行った。授業改善に向けできる限りスリム化した研修体制を確立した。また、保護者への文書送付・欠席や遅刻の報告をメールにした。その結果、教材研究や学級事務の時間が確保でき、児童・職員・保護者の負担も軽減した。

###### ② 教頭としての役割

教頭は、重点支援校としての授業改善を図るメンバー選を行い、メンター構成について助言した。また、年度当初から全保護者のメール登録に努めた。文書配付や電話対応の時間縮減を目指すとともに、業者にも協力を依頼しメールでの保護者との双方向性を確立するよう率先して行動した。

##### (2) 森永小学校

###### ① 取組とその成果

週時程を改善し、昼清掃を朝に変更したことで、放課後の時間を1時間は確保した。また、退庁が遅くなりがちな職員には個別に面談し、業務の優先順位や効率的なやり

方について一緒に考え、業務改善を行った。その結果、教材研究等の時間が確保でき、職員の時間外勤務が減少してきた。

###### ② 教頭としての役割

教頭は、教務主任と週時程の改善を話し合ったり、職員と個別に話し合ったりして職員の業務改善を図った。

##### (3) 八代小学校

###### ① 取組とその成果

教員の働き方を改革するためには、「ワーク・ライフ・バランス」を念頭に置いた意識改革が大切であると考え、職員会や職員朝会において、その重要性を継続して確認してきた。また、金曜日を定時退庁日と設定し、主な業務は木曜日までに取り組むなど1週間単位で職務に当たれるように、会議の精選等を行った。その結果、職員の働き方改革の意識が向上し、計画的に業務に当たる職員が増えつつある。

###### ② 教頭としての役割

教頭は、勤務時間を意識して業務に当たることの大切さを適宜説明し、教員一人一人がもつ指導方法等の悩みを気軽に相談できる雰囲気づくりに努めた。また、継続してサポートできるように心掛けている。

##### (4) 木脇小学校

###### ① 取組とその成果

会議のペーパーレス化とスクールサポートスタッフの活用を推進した。業務の精選や削減のため、会議等では、必要な資料だけを個人で印刷し、連絡等はC4t hの連絡版を活用した。また、事務作業で委託できるものは、積極的にスクールサポートスタッフに依頼した。その結果、職員が、より教育活動に専念できるようになり、事務作業などの負担軽減につながった。

###### ② 教頭としての役割

教頭は、会議の持ち方について、校長の指導のもと、コンプライアンス推進委員会等で協議し改善を図った。また、スクールサポートスタッフとも連携し、簡単な依頼書を作成するなど、委託しやすい環境作りを行い職員に活用を働きかけた。

#### (5) 綾小学校

##### ① 取組とその成果

解錠時刻（午前7時以降）の設定と週1回の定時退庁の完全実施を行った。また、午前5時間授業に取り組むとともに、通知表を年間3回から2回にし、家庭訪問を自宅確認のみとし、夏季休業中に個別面談を実施するように変更した。さらに、C4thを利用し提案・連絡をしたり、日頃から教職員が相談や提案がしやすい雰囲気を醸成したりしている。その結果、教職員の負担軽減につながりつつある。

##### ② 教頭としての役割

教頭は、定時退庁を呼びかけ、C4thを日頃から見習い作りを行っている。また、職員とコミュニケーションをとり明るい職場になるように努めている。さらに、町独自に放課後の電話や来客対応・施錠の人員を確保しているため、職員の手本となるように率先して退庁するようにしている。

#### (6) 本庄中学校

##### ① 取組とその成果

本校では、働き方改革として、

- チームとしての業務の効率化、会議、行事、作成資料の見直し
- リフレッシュデ이의確実な実施
- 時間外勤務に関する職員の意識改革
- 風通しのよい職場環境づくり
- 必要な休暇が取得しやすい環境づくりに取り組んだ。その結果、職員の意識改革が進み、仕事の効率化が図られてきた。

##### ② 教頭としての役割

教頭は、働きやすい職場環境づくりを目指し、「傾聴」と「承認」を柱に、積極的にコミュニケーションを取り、相手との違いを尊重し、相違点に価値を見出し、お互いに納得できる案を出すことを心掛けている。また、職朝や通信等を使い意識改革を図っている。

#### (7) 八代中学校

##### ① 取組とその成果

本校の職員は5教科各1名と保健体育であり、一人一人の役割を大きく縮減させることが難しい。しかし、C4thやICTを効果的に使用し、業務の効率化を模索してきた。また、毎週水曜日の定時退庁を徹底し、テスト期間は5時間授業に設定し採点の時間確保も行った。部活動の計画を確認し、中

体連の振休も確実に取得するようにした。その結果、業務の効率化が進みつつある。

##### ② 教頭としての役割

教頭は、不登校生の家庭訪問や保護者対応等、学担以外でもできる業務を率先して行った。また、行事や校内研究等の計画は無理・無駄を無くし、効率化を図ることで、担当者の負担軽減につなげるように助言した。PTA活動は内容を精選し、職員や保護者の負担減を図った。

#### (8) 木脇中学校

##### ① 取組とその成果

県の「働き方改革好事例集」を参考に、教育課程の工夫を行った。また、週2日、休憩時間を25分と20分に分割し、放課後事務作業や部活動の時間を確保した。その結果、生徒の補充学習等にも時間を活用することができた。

##### ② 教頭としての役割

校時程の変更には、職員の働き方に関する意識改革と全体の業務の削減が不可欠である。全職員で共通理解を図りながら、業務の見直しや改善、削減を進めた。

また、年度途中の変更であったため、生徒及び保護者への周知を適宜行い、スムーズな移行に努めた。

#### (9) 綾中学校

##### ① 取組とその成果

朝、出勤時刻を入力する際に、退庁時刻を意識し予定時刻を入力するように促した。その結果、職員の退庁時刻を守る意識が高まりつつある。

##### ② 教頭としての役割

職朝などで、時間について呼びかけをし、どうしても遅くなる職員とは、原因について話し、アドバイスをを行った。また、校務分掌を工夫したり、大きな役割については、主と副を配置したりした。

#### 4 今後の課題

- 働き方改革を進めるには、職員の意識を変えていくことが重要である。そのために、教頭として、職員に対して継続して呼びかけていく必要がある。
- 職員の業務量に偏りはないか見直すとともに、効率的な仕事のやり方をアドバイスしたり支援したりする必要がある。